

# 暮らし+リンク

「暮らし+リンク」は、天然住宅の情報や活動報告、みなさまが持っている情報を発信し、`健康的な暮らしの交流の場`となることを目指して作ったニュースレターです。このニュースレターを通じて、皆様のお役に立てる素敵な情報をお届けしたいと思います。ぜひ、読んで楽しんでください。

ご意見、ご感想、掲載希望の情報もお待ちしています！！



## ■天然住宅完成見学会を行いました

12月7日 千葉県松戸市 S様邸

S様邸は、出前専門の釜飯屋さんをしており、住宅に大きなキッチンスペースを併設しています。フリー設計で一から計画し、建築されました。見学会ではS様が自ら写真を貼りだし、建築中の様子やこだわり、そして参加者に向けて建築される際のアドバイス(メッセージ)をお話くださいました。そのお話を聞き、私たちも「家を建てること」というのは、「家を買う」とことと全く違うことなのだを再認識させていただきました。

S様のメッセージの一つ目は「備えあれば憂いなし」。当初想定していなかったのですが、関東で竜巻が起こったことを受けて、屋根と本体を繋結する金物を計画時よりも多く設置しました。それによって、安心感が得られたそう。「気になることは相談した方がよい」とS様。二つ目は「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の損」。S様は本当によく現場に足を運んで下さり、職人の仕事をよく観察されていました。分からないことがあれば、その場で聞くようにし、おかげで色々なことが理解でき、納得・感心が出来たそうです。最後に「『真摯に受け止め、善処します』というのは政治家が言うと、何もしないということだが、天然住宅にはその姿勢があった」と言うてくださいました。

S様は毎日のように現場に足を運ばれ、写真も数百枚撮ったそうです。そしてその度に職人さんや我々スタッフのことを労ってくださいました。そのような中で「一緒に建っている」という感覚が自然と生まれ、色々なところで結実していたと思います。建売ではなく建築する過程を共にするからこそ、味わえる喜びがあります。職人さんや作り手が、建主様と顔の見える関係にあることは、家づくりにとって一見当然だけれども、とても重要なことなのだ、S様と家づくりをして改めて気づかされました。

引越後、しばらくゆっくりするそうですが、是非また元気に釜飯屋さんを続けてくださいね！楽しみにしています！と言うと、「田中さんは顔を合わす度に釜飯って言うんだから。ご馳走するから急かさないで！」と奥様の声が聞こえます。(田中竜二)



## 目次

- 完成見学会を行いました
- 栗駒ツアー無事終了しました
- 天然住宅建築レポート
- 新春インタビュー  
天然住宅代表・相根昭典  
天然住宅共同代表・田中優
- 天然住宅スタッフの抱負
- 今後のイベント
- 天然住宅バンク近況報告
- 天然住宅ものがたり

~私の生き方×暮らし方~

今月の表紙の写真は、昨年12月に行われた栗駒での伐採ツアーの様子です。2ページに関連記事がありません。

## 【発行元】

一般社団法人 天然住宅  
〒152-0031  
東京都目黒区中根 1-10-18  
TEL 03-5726-4226  
FAX 03-3725-5652  
メール info@tennen.org

## ■2013年冬 栗駒伐採ツアー無事終了しました

### 栗駒ツアーで気づく山と街との認識の違い

栗駒ツアーに行くと「今までの認識が覆された！」と言っていただくことがあります。確かに一般的な認識と山側の実情の間には隔たりがあることが多いです。

例えば「木を使わないことがエコ」という認識すら一般の方にはありません。木はもちろん使わなければなりません。日本には手を入れられていない森がたくさんあります。山にお金が回らなければ、山はどんどん捨てられていきます。だから、木材の需要を増やし使用することは、山にとってとても重要なことです。



木材の使われ方にも大きな分かれ道があります。木材は家具、構造材、ペレットなど木質燃料、合板集成材用チップ、パルプチップの順に山側の付加価値が高く売れます。例えば、私たち消費者が高付加価値製品である机(木製家具)を選ぶ際、集成材の机ではなく、無垢材の机を選択することで山側への還元率は大きく違いが出ます。また、現在、住宅の構造材はほとんどが集成材や合板ですが、木造でも、山を守るのは無垢材で建てる住宅の方です。このように高付加価値製品が市場に出て、選ばれていくことが重要なのですが、今は市場と山側が分断されていて、市場に出回る多くの家具や住宅に使われる建材は合板・ベニヤ・集成材が大半です。天然住宅では栗駒木材から直接無垢材を取り寄せているので、山側への還元率が高く(一般木造住宅の4~6倍くらい)、さらにお客様にはトレーサビリティの高い、安全な木材をお届けできるようになっています。

木材を有効利用するためにはカスケード利用することも重要なことの一つです。一本の丸太から取れる、住宅の構造材に使える歩留まりは約30%程度。あとの部分は他の使い道に回さざるを得ません。栗駒木材では、ペレット、薪、パルプチップにしています。前述のように、木質燃料は比較的高く取引されるので、ペレットを燃料に使うことは山を守ることに繋がります。また、日本全国の木の前成長は、日本全国の着工棟数以上ですので、木質燃料を使用することはカスケード利用する限り、山を壊すことにはつながりません。

もちろん、価格が高い製品には相応の価値がなくてははいけません。山側の企業努力も必要です。同時に、街側で消費者として、山側に寄り添う目線を持って消費をしたいと思います。(田中竜二)

## ■天然住宅建築レポート

### 引き渡し間近の天然住宅で漆喰塗りをお手伝いしてきました



2月下旬にお引き渡し予定のN様邸では、内装の「貝てき漆くい」をセルフビルドで仕上げることになっています。この日、Nさんのお知り合いを呼んでのワークショップが開催されることになり、スタッフの田中竜二さんと一緒に塗り壁のお手伝いに行きました。私たちを除く参加者は、建て主のNさん、奥様のお父さん、奥様の元同僚2人。左官屋さん2人と工事担当の松井工務店の松井さんが指導に当たってくださいました。

N邸では、階段などの素人には難しいところは職人さんをお願いし、和室の壁紙仕上げのところ以外をNさんがセルフビルドします。仕事の後や休みの日を使って、工期は約2週間。漆喰の粉に水を混ぜて練っていく「混練作業」やマスキングテープや養生テープを使い、他の部材に汚れが付かないようにする「養生作業」など、一連の作業をNさんは職人さんから学びます。Nさん以外の参加者たちは、漆喰をプラスターボードに塗りつけていく作業です。

この日の作業は2階全体の下地処理と、2階の子ども部屋(将来2つに分ける予定)の7.5畳のスペース。7.5畳といっても、ロフトが作れるほどの天井高なので、塗り面積は相当。2階の梁に足場をかけながら、機敏な動きで塗り壁作業をされていたお父さん、あっぱれでした。お孫さんが大きくなったとき、「ここの部屋はおじいちゃんが塗ったんだぞー」って自慢したりするのかな。そんな家族との時間が、いまから楽しみです。(鹿島伸子)



## ■新春企画 天然住宅 代表インタビュー

### 今年は「楽しむ」がキーワード (相根昭典より)

「森を守って健康、長もち」。天然住宅を立ち上げてからは、このコンセプトが本物だということを証明するのに全力を注いできた。とにかく質実剛健で、まっすぐに突き進んできた感じがする。4年間という長かった大学との共同研究が終わり、いまは自信を持って天然住宅の価値をアピールできるようになった。迷わずに進んでいける下地ができたことは本当に嬉しい。

これをベースに、今年は「楽しむ」をキーワードとして、さまざまなチャレンジをしていきたいと思っている。楽しいとスピードも違う。作り手として建て主さんの暮らしを楽しむ、ものづくりを楽しむ、アイデアを練ることを楽しむ…。そうして、建て主さんとの打ち合わせをもっともっと楽しんでいけたらいいと思っている。天然住宅の打ち合わせって、いっぱい伝えたいことがあるから結構まじめな雰囲気なんだけど、これからはもっとオープンで、クリエイティブな感じになっていくのではないかな。

被災地支援については、いよいよ今年、本格的に復興住宅建築に取り掛かる予定。震災が起きた当初は、復興住宅が必要だろうって動いてみただけど、被災者自身がすぐに決心がつくような状況じゃなかったのと、大工や職人がいなくなって、建築費がぐんと上がったりして、タイミングが合わなかった。それよりも、被災した人たちがこれからどうしていくか考える場が必要だった。昨年完工した気仙沼市前浜地区でのコミュニティーセンターづくりに協力したのもそのためだが、建築中からものすごい盛り上がりで、コミュニティーの立て直しが、まず必要だったことを改めて実感する機会になった。

そうして、今度は陸前高田市の副市長から、地元の復興に協力してほしいとオファーがあり、気仙大工組合を中心にさまざまな団体や個人の方の協力で、今春、天然住宅による復興住宅第一号が実現しようとしている。まだ復興するための整備すらできていない被災地も多い。このプロジェクトが、これから何年もかかるであろう復興の足掛かりになればいいし、我々が関わり続けていくことで、被災地のことを忘れないでもらえればと思っている。



### これからの暮らし方～ Give&Take から Gift&Return へ (田中優より)

今から 30 年前中曽根政権の時代に、政府は高福祉の国「北欧」を調査した。高福祉を実現する方法を理解した途端、政府は高福祉を捨てた。「高福祉にすると人々は貯金しなくなり、世界一の投資資金が失われる。人々は必死に働かなくなる」と。以来私たちは低福祉のまま、目の前にニンジンをつぶら下げられた馬のように働き続けている。労働生産性は百倍高まっても、労働時間は百分の一にならない。働く以外は、不必要なモノに囲まれて、どう作っているのかもわからないライフラインを使って他人任せに暮らしている。生活実感も乏しいまま、すべてが借り物で、仮住まいしているみたいだ。

でもほんの半世紀前まで、人々は井戸を掘り薪を割って風呂を焚き、多少の作物なら自宅の庭で作っていた。農薬も化学肥料もガスもなく、水道がなくとも困らなかった。その暮らしを取り戻すことはできないか。実は労働生産性の向上が、これを可能にしているのだ。ガソリン発電機は3万円ほどで買え、太陽光発電とバッテリーだけで暮らすことも可能だ。ペレットストーブは今や灯油ストーブより燃費が良くなり、太陽温水器と薪ボイラーでお湯の自給も可能だ。私自身も岡山の田舎に引越して、電気を自給し井戸で水を自給している。暖房は木質ペレットストーブで灯油に頼らない。すでに二酸化炭素排出量は三分の一を切り、電気自動車を入れられればほぼゼロになる。しかもこの暮らしはおカネがいらぬ。経済を否定するつもりはないが、過度の依存は危険だろう。



「世界経済がどうなろうと暮らせる仕組み」がいい。近所の人たちは無農薬で作った野菜を届けてくれて、私は返せるものを考える。「やるからよこせ (Give&Take) 」ではなく、「差し上げますから受け取ってください (Gift&Return) 」でも経済循環は可能だ。これから、そんな暮らしを始めたい



## ■天然住宅グループスタッフの今年の抱負を聞きました

天然住宅グループは、天然住宅とアンビエックス（設計）、素材工房（材料販売&施工）、天然住宅 BANK の4団体で成り立っています。スタッフは総勢11人。今年の抱負を聞いてみました！！今年も個性豊かなこのメンバーで、力を合わせてがんばりたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いたします。



より多くのお客様と  
一糸巻に  
家づくりストーリーを  
楽しみたい！です。  
お返しお強ひたいです。

早田文彦

一日一歩

素材工房 濱中

整

現場も机も  
整理整頓！

素材工房 大迫洋子



震災後に授けられた  
良い学びを  
先日久々に振り返り  
ました。夕前に遅  
めた原宿の「日々希望  
をキキコト、私自身  
心に込めていることです。  
2014年、希望や  
ワクワク感を皆に  
届けられるよう  
がんばります！  
今年も宜しくお願い  
します。  
天然住宅 井上あけみ

自分のアタマ  
で考える

おのづから  
あけみ

天然住宅に関わりの2人である  
皆様に信頼され、また「今まで」  
天然住宅を建ててくださったお客様  
が「誇らしく思っていた」だけで  
よりよい団体にしていきたいと  
思います！

田中竜二

日々  
努力

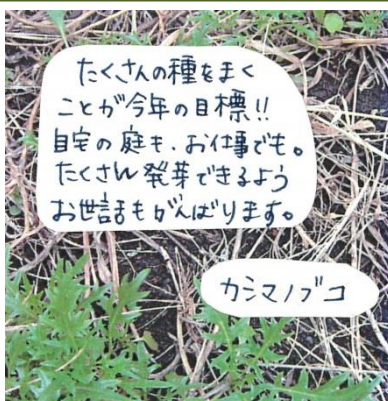
清水洋子

離見の見

素材工房  
下岡美有紀

和衷共濟

株式会社素材工房  
相根 秀人



たくさん種をまく  
ことが今年の目標!!  
自宅の庭も、おいづも。  
たくさん芽がでるよう  
お世話をがんばります。

カシマノブコ

勤

AMBIEX

加施 秀人

## ■今後のイベント

詳細はホームページでご確認ください

### ■2/15（土）お住まい見学会 @埼玉県・上尾

実際に住まわれているお宅を拝見させていただくお住まい見学会を開催します。場所は埼玉県さいたま市北区（最寄駅はJR 高崎線「上尾駅」）。今回見学させていただくお宅は、規格型プランで建築しました。1F、漆くい壁のリビングにはベレットストーブを設置。天井は構造としても効いている木部があらわしになっています。対面式のキッチンと造作の本棚、栗駒産材で造ったテーブルもご覧いただけます。2Fは寝室と将来子供部屋になる予定のスペース、ドライスペースもとっています。小屋裏はロフトとして使用しています。時間は10:30~12:00。当日は、天然住宅の取り組みについて代表の相根の講演と、お住まい見学会の2部構成で行います。初めての方は是非、1部、2部ともにご参加いただければと思います。1部10:30~11:15 代表相根による「天然住宅」についてのお話、2部11:15~12:00 お住まい見学会、質疑応答。建て主様はお住まいになられてもうすぐ4年になります。季節ごとの住み心地や、暮らしの工夫など、是非お話を聞いてみてください。

### ■2/23（日）子どもに手渡したい天然住宅お話し会 @神奈川県・逗子

築1年の天然住宅のお住まいで、共同代表・田中優によるお話し会を開催します。特に子育て中やこれから子育てをしていく世代に向けて、天然住宅のお話を中心に、エネルギーのこと、これからの時代の暮らし方などをお話ししたいと思います。場所は神奈川県逗子市（JR 横須賀線「逗子駅」から徒歩5分、京浜急行線「新逗子駅」から徒歩3分）、時間は10:30~12:00。少人数のお話し会なので、リラックスして、また質問なども気軽にしながらお過ごしいただけます。お子様連れもOK。参加費無料です。

※今後の予定 暮らしリンクセミナー（うさとさん、善了寺さん、吉田俊道さん、前田歯科医院さんとは日程調整中）などワクワクする企画をたくさん用意しています。たくさんのご参加お待ちしております。

## ■天然住宅バンク近況報告

天然住宅で建てる家のほとんどの木材を供給しているのが、宮城県栗原市に工場を持つ「栗駒木材 株式会社」です。人体に有害な物質を一切使わず、完全オーガニックな木材を届けてくれます。

栗駒木材は数年前、260haという広大な森を購入しました。そこはかつてのリゾート開発予定地で、バブル崩壊後は債権者の盗伐により、文字通り荒れ果て、経済価値のなくなった森でした。ある日、その森が産業廃棄物業者に買われることを知った栗駒木材が、銀行から大借金をして購入したのです。森の麓には由緒ある温泉街が。その街で生きる人たちの暮らしを守りたいという思いから突き動かされた行動でした。今、その森は「エコラの森」と名付けられ、彼らの手によって少しずつ命を吹き返しています。

彼らの試みを応援したいと立ち上げたのが「コモンズの森プロジェクト」です。都市に暮らす人々と山側（林業者）をつなげる仕組みとして、プロジェクトの賛同者から集められた出資金の一部を金利ゼロで融資しました。栗駒木材が森の購入のために負った8000万円という借金、銀行への月々の金利負担は相当なものです。その一部でも補填してもらえたら、4年前に150万円の融資を実行しています。市民の志ある支援を彼らはとても喜んでくれ、去年の年末、無事完済となりました。

このプロジェクトは今も継続中で、近々2回目の融資を行う予定です。もちろん栗駒木材に限らず、国内で同じように森を守ろうとしているところがあれば応援していきたいと思っています。興味のある方はぜひホームページを見て下さい。出資も随時募集中です。（井上あいみ）

### バンクよりお知らせ

天然住宅バンクでは、組合員を随時募集しています。私たちの活動に興味を持っていただける方、まずはホームページをご覧ください。  
<http://www.tennenbank.org/>

活動の詳細、出資方法についてもこちらに記載しています。

【次回の天然住宅バンクミーティングのご案内】

- 日時 2月21日（金）  
午後7時～午後9時30分
- 場所 新宿ASKビル4F会議室  
（東京都新宿区歌舞伎町2-19-13）
- 参加費 無料
- 申込み先  
<http://tennen.org/bankentry.html>  
または、[info@tennenbank.org](mailto:info@tennenbank.org)まで。

※途中参加・退席も可能です。

## ■天然住宅ものがたり～私の生き方×暮らし方～

頭でなく、体が素直に感じる「心地よさ」

東京都世田谷区 鈴木恵理さん

天然住宅と鈴木恵理さんの出会いは今から約 5 年前、知人の勧めで参加した見学会がきっかけです。もともとケアマネジャーの仕事をしていた恵理さんにとって、「健康的に暮らすこと」は、自身の大切なテーマでした。また、両親の老後を自分で看取りたいという思いを持っていたため、ゆくゆくは自宅の改築を考えていたそうです。

「見せてもらった家がすごく良くて、その家の見学会には 3 回足を運びました。2 回目に参加した時、不思議な体験をしたんです。そこからですね、いつか天然住宅に住みたいという夢を抱くようになったのは」。その日はひどい筋肉痛で体調がとても悪かったという恵理さん。見学会が終わった後は体が軽く感じられ、筋肉痛もすっかり和らいでいたそうです。「頭でなく、体が素直に心地良さを感じたんです。そんなことがあるんだ！って感動しました」。

いつか天然住宅に住みたい。そんな夢を抱いた恵理さんでしたが、当時の恵理さんは独身で、定職に就いていたものの正社員ではなかったため住宅ローンを組むことができませんでした。夢を叶えるために大手会社へ正社員として就職し、それと同時に両親への説得もはじめました。それから約 3 年の時を経て、ようやく恵理さんの夢が叶うことに。設計士と打ち合わせしながら、自宅の大規模改修がはじまりました。

「それまで住んでいた家は介護向けの作りではなかったんです。バリアフリーはおろか、お風呂も 2 階にありました。それに、今までの家はお金ばかり出ていく家でした。健康的に長く住めるというだけでなく、もし自分が親の介護で仕事ができなくなっても収入が入るような空間を作りたい。そんな思いから、賃貸スペースと時間貸しスペースも作りました」。

「いつかこの家で子育てがしたい・・・」

「天然住宅に住んでみてどうですか？」と恵理さんにストレートな質問を投げかけてみました。穏やかな笑顔とともに返ってきた言葉は、「毎日が平穏です」という一言。「無垢の木は温かみがあってとにかく心地が良いですよ。何より、安心して過ごせる暮らしの土台ができあがったことへの安堵感が毎日を平穏なものにしてくれています」。

恵理さんは言います。「今の時代、不健康な住宅が当たり前になっていますよね。もちろんけっして不健康住宅だなんてうたっていないけれど、自然素材や省エネ住宅と言いながら、そうではない住宅もたくさんある。だからこそ、本当の意味での健康住宅、天然住宅には広がってほしいんです。そのために協力できることはしていきたいなって思っています」。

そんな恵理さん、つい先日結婚をされ、ご主人との新しい生活をスタートさせました。今一番の願いは「この家で子育てをすること！」だそうです。「私、夢を叶えるチカラをすごく持っていると思うんですよ。絶対ダメだと思っていた天然住宅に住むという夢を叶えられたのも、素敵なパートナーができ、結婚することができたのも、そのチカラのおかげだと思っているんです」。

そう遠くない将来、幸せなご報告を聞ける日が楽しみです。恵理さん、今回は本当にありがとうございました！



鈴木恵理さんってどんな人？

普段からとても明るくパワフルな恵理さん。森林ツアーなどにもよく参加して下さり、イベントの参加者や建主さんとの交流も盛んにされています。以前、「天然住宅に住む」という夢を自身の名刺に明記されていたことがありました。恵理さんの夢が叶ったことは、スタッフにとっても本当に嬉しいことでした。

天然住宅スタッフより

普段から仲良くさせてもらい、時々ご飯をご一緒させて頂くことがありますが、裏表なく、まっすぐに感情を表現される場所、素直な言葉の数々にいつも元気をもらいます。新婚ホヤホヤのお姿は本当に幸せそうで、私も幸せな気持ちを頂きました^^ (井上あいみ)



天然住宅  
http://tennen.org

☆天然住宅 facebook もご覧ください！！